

「保障措置のための模擬補完的アクセス教材の考案」

業績

核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）は、IAEA 保障措置の円滑な実施のためのトレーニングコースを主にアジアの規制当局者や事業者を対象に実施している。IAEA との保障措置協定追加議定書（AP）に基づく補完的アクセス（CA）は重要な保障措置手段であるが他の査察に比べて実施頻度が低い。国・事業者側の対応経験が少ない。円滑な CA 対応は効率的効果的な保障措置の実施及び AP の普遍化における課題であることから、ISCN のトレーニングコースにおいても重要な項目である。コロナ禍による海外渡航制限をきっかけにトレーニングコースのオンライン開発に取り組む中で開発したバーチャルツアー（VT）技術を用いて原子力機構の研究炉施設の VT を制作した。また、CA シナリオの脚本化（IAEA 本部が監修）並びに IAEA 東京事務所の協力を得た現役保障措置査察官が登場するビデオ（15 本）を制作し、VT とビデオを組み合わせた新しい手法の教材に着眼した。

ビデオ教材は査察官が CA に向かう前の準備から CA 後のクロージング打合せまでの全てのプロセスをカバーし、動画の合間に AP 条項文を加えて参照できるよう工夫した。さらに英語を母国語としない参加者の理解を助けるためにビデオに英語字幕を付した。教材は架空の原子力施設背景を説明するパワーポイントプレゼンテーションも含む。

本教材は対面でのトレーニング再開後のコースにおいても使用し、2021 年（オンライン）、2022 年（対面）のいずれも参加者の満足度 100% を達成した。IAEA が加盟国向けトレーニング教材として採用した他、アジア以外にも本ビデオ教材にスペイン語字幕を付したものをラテンアメリカ向けトレーニングに使用、原子力規制庁の国内査察官向け研修教材として採用された。教材をパッケージ化して IAEA の E-ラーニングサイト上で加盟国（176 か国）へ共有し、世界標準教材としてその利用が広がり核不拡散体制の強化に貢献している。



バーチャルツアー上での Mock-CA 動画例

Mock-CA 演習の構成と IAEA 加盟国への共有

*: CA は、IAEA にとっては日本を含む加盟国の保障措置結論（未申告の活動がないこと）を導出する上で必須の手法であり、国・事業者側にとっては適切な対応をとることが必要である。